



町の宣言

「地方創生SDGs推進の町」宣言

SDGs(持続可能な開発目標)は、貧困や人種差別、環境破壊など、地球規模のさまざまな問題を解決するために、国際連合によって定められた2016年から2030年までの国際目標です。

持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するための17のゴールと169のターゲットから構成されており、国際連合に加盟する191カ国が地球上の「誰一人として取り残さない」ことを共通理念として取り組んでいます。

人口減少・超少子高齢社会の到来など、地域の課題が顕著となる中、持続的なまちづくりを実践していくためには、地域全体でSDGsの理念を共有し、多様な主体とのパートナーシップにより、新しい価値の創造や恵まれた地域資源の継承、地域経済の活性化などに取り組んでいく必要があります。

本町では、次期総合計画策定にあたり、基本計画とSDGsの17の目標との関連性を明確に示し、各施策の推進を図ることでSDGsの達成につなげていきます。

私たちは、SDGsを原動力とした地方創生を推進し、より良い未来を次世代に引き継いでいけるよう、ここに「地方創生SDGs推進の町」を宣言します。

令和3年6月22日

「再生可能エネルギー推進の町」宣言

桑折町は、阿武隈川の清い流れと、緑につつまれた半田山のふもとにひらけた、古い歴史をもつ由緒ある町です。私たちは、この町の伝統ある歴史と文化、恵まれた自然環境を守り、さらに活力ある町に育て後世に引き継ぐために、努めてきました。

しかし、平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」とこれを起因にした「東京電力福島第1原子力発電所」の事故は、国内はもとより、世界中の人々をも震撼させる出来事であり、本町を取り巻く環境を激変させました。とりわけ、大気中に放出された放射性物質によるかけがえのない大切な町土の汚染は、日常生活や基幹産業である農業を深刻な状況に陥れました。

私たちは、今この未曾有の大災害を克服し、復興・再生に向けて、全力で取り組んでいます。同時に、この大災害から何を学び、どう将来の町づくりに活かすかも問われています。福島県は、原発と決別することにしました。本町もこれに賛同し、福島の地における「脱原発」と「原子力発電所の全ての廃炉」を強く求めてきました。このような事態を踏まえ、私たちは、原子力に依存しない、安全・安心で持続的に発展可能な社会づくりに努めなければなりません。

私たちは、原子力への依存からの脱却を目指し、太陽光、小水力などの再生可能エネルギーを積極的に活用し、自然環境への負荷を極力抑え、地球温暖化防止や低炭素・循環型社会の実現に寄与するため、「再生可能エネルギー推進の町」を宣言します。

平成27年3月25日

「非核平和の町」宣言

世界の恒久平和と安全は人類共通の願望である。

しかし、平和における「核」は、今や平和利用の域をはるかに超えて、人類存続の危機をも招く核軍備の拡大は、とどまることなく世界平和に深刻な脅威をもたらしている。

わが国は世界唯一の核兵器による被爆国として、平和を愛するすべての国の人々とともに、非核三原則に基づき人類の安全と生存のため不断の努力を続けるべきである。

桑折町は、日本国憲法の平和主義の精神に基づいて、核兵器の完全廃絶と軍備縮小を世界に訴え、人類の願いである世界平和の実現を希求し、ここに「非核平和の町」であることを宣言する。

平成元年7月31日